

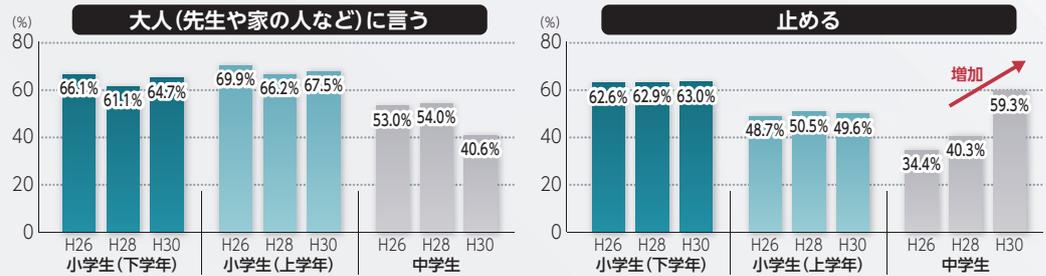
浦安市では、子どもを取り巻く社会変化や教育情勢と、子どもの生活との関連性を客観的に把握し、分析することを通して、教育の充実を図るために、隔年で生活実態調査を実施しています。(各小中学校各学年より1クラス抽出して実施)

調査項目

ふだんの生活について/勉強や読書について/友だちや家の人との関係について/地域の人の関係について/ネットやメールについて/自分自身について/安全のことについて

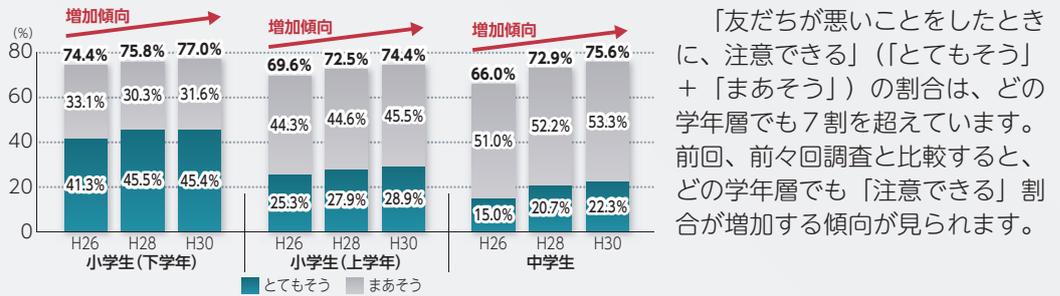
友だちや家の人との関係について

Q いじめを見たらどうしますか(複数回答)



「いじめを見たらどうしますか」の質問に対して、中学生では「止める」の割合が大きく増加しました。その反面、「いじめを見たら大人に言う」の割合は、小学生は7割を下回り、中学生は約4割となっています。学校・家庭・地域の大人が連携・協力し、子どもたちがより安心して大人に相談できる環境づくりを進めていくことが、とても大切になってきています。

Q 友だちが悪いことをしたときに、注意できる



「友だちが悪いことをしたときに、注意できる」(「とてもそう」+「まあそう」)の割合は、どの学年層でも7割を超えています。前回、前々回調査と比較すると、どの学年層でも「注意できる」割合が増加する傾向が見られます。

ネットやメールについて

Q 自分の携帯電話やスマートフォンを持っていますか

「自分の携帯電話やスマートフォンを持っている」の割合は、学年が上がるに伴いほぼ増加しており、小学3年生で約6割、中学生では8割を超えています。

前回、前々回調査と比較すると、小学1年生、小学3年生、中学生の所有率が増加しています。所有するにあたっては、ルールや約束事を大人と子どもでしっかりと話し合うことが大切です。

携帯電話(スマートフォン)の所有率の経年変化

